

「しあわせ」

「Are you happy?」

児童養護施設で暮らす 7 歳の男の子に尋ねてみた。

「I'm very happy!」

と、彼は迷いもなく私に笑顔で答えたのだ。

私は、JHP・学校を作る会(※1)が主催する 2010 年 8 月カンボジア隊に参加し、ボランティアをしてきた。私たちの主な活動は JHP が建設した学校の校庭にブランコを作ることだ。ブランコ作りは木材のやすりがけから始め、慣れない電動工具などを使い、計 6 つのブランコを 3 つの小学校に完成させた。また、現地 NGO 訪問や孤児院に行き子どもたちと交流を行った。日程は、8 月 1 日から 30 日の約 1 ヶ月間だった。

活動の中で、強く感じたことがあった。それは、日本よりもはるかに貧しい子どもたちの顔が「希望」に満ち溢れていたことだ。しかし、彼らは貧しく、環境も悪いのになぜ幸せだと迷いもなく言い切ることができるのか、不思議でたまらず、活動中には理解することができなかった。

そもそも、私がカンボジアでボランティアをしようとしたのには、2 つの理由があった。

1. 小学生の頃に「世界で一番いのちの短い国—シエラレオネの国境なき医師団（山本敏晴、白水社、2002）」を読み、国際協力に興味湧き、大学生になった今、何が問題なのかを考えたかったから
2. 普段の生活ではなかなか感じるできない「しあわせ」を考え直したかったから

帰国後、いつものように電車に乗っていて気になることがあった。それは、多くの乗客が朝だというのに、疲れきった表情をしていることである。彼らからは、「希望」のかすかな光さえ感じとることができなかった。

経済的に裕福な日本と、経済的に貧しいカンボジア。「なぜ、ここまで表情に違いがあるのだろうか?」、「しあわせとは一体何なのか?」という問いに直面した。

日本の一人当たりの GDP はカンボジアの約 5 倍であり、経済的に私たちは相当恵まれている。だが、カンボジアの首都であるプノンペンの街中には高層ビルが建ち並び、車はレクサス、トヨタや三菱などの日本車が多く走り回っていた。そこは、貧困国と呼ばれた国とは思えないほどであった。だが、これが意味すること。それは経済格差である。私たちがブランコ作りをする地域は都市プノンペンから約 1 時間から 1 時間半ほどであり、経済格差を感じ取ることができた。つまり、都市だけが発展し地方はなかなか発展していないのが現状であった。だが、そんな彼らの表情は「希望」に満ち溢れていた。

「豊かさはしあわせと関係しないのだろうか?」このことを考えている時、教職の授業で扱った南アジアに位置するブータンを思い出した。ブータンでは、「人々が貧しくとも、心豊かであれば幸福感のある社会が実現できる」という考えから国民総生産 (GNP) ならぬ国民総幸福 (GNH) を国の方針にしており、国民の 95% が「しあわせ」と答えている。

では、「日本は豊かな国なのだろうか?」さまざまな観点から人生の幸福度を発表した「世界幸福度」レポートによれば、日本は 178 国中 90 位であった。しあわせという概念に対して各国・各国民によってとらえかたは人それぞれだろうが、ものの豊かさで満たされているはずの私たちは、それほどしあわせとは言えないようだ。また、日本の自殺率は

103 国中 6 位であった。経済不況など要因はさまざま考えられるが、この問題にも「しあわせ」が深くかかわっていると考える。

それでは、「しあわせと経済的豊かさ、心の豊かさはどんな関係にあるのだろうか？」その答えは「貧困」という言葉に隠されている。貧困とは単純に生活が困難な程お金がないものだけではなく、家族や友人などの信頼できる人から助けってもらえず、精神的に参ってしまう状態のことであると考え。貧しさはものの豊かさだけではなく、心の豊かさとも関係があるのだ。つまり、「ものの豊かさ」だけでなく、「心の豊かさ」もまた「しあわせ」を形作るために必要な要素なのだ。そのために、日々の生活の中で家族・友人との交流を大切にし、お互いを尊重しあい、すべてのことに感謝する必要がある。

私たちの主な活動はブランコを校庭に作ることだ。そもそも、カンボジアの校庭には遊具がない。もちろん、ブランコの乗り方がわからない。だが、私たちが乗り方を教えたりするうちに彼らを競ってブランコに乗り始めた。そして彼らは、私たちに「オークンチュラン（ありがとう）」と笑顔で言ったのである。

私たちは、たくさんものものに囲まれ、勉強したければノートも教科書も大いにある。また、水も蛇口を捻れば出、電気もスイッチを押せば入る。こんな当たり前のことがどれだけ「しあわせ」なのか。私たちは発展途上国や貧困国の生活を踏み台にして生きていることを認識する必要がある。「しあわせ」を感じることなく、生活することは自身の人生にとってマイナスであり、貧困者に失礼である。そのためにも、「しあわせ」を感じる事が大切である。

「Are you happy?」

もし子どもに尋ねられたら、私は迷わずこう言うだろう。

「I' m very happy!」



※1 JHP・学校を作る会—国際協力を行う認定NPOであり、金八先生の脚本家である小山内美江子氏によって設立された。JHPとは「JAPAN TEAM OF YOUNG HUMAN POWER」の略称である。「できることからはじめよう」を合言葉に、カンボジアでの学校建設や教育支援、学生や社会人のボランティア派遣も行っている。カンボジア国内に1993年から現在まで約260棟の小学校を建設した。

<参考文献>

- ・Shunnavi http://syunnavi.net/p/?p=prere/pre_view&rno=580 (アクセス日 2010年9月20日)
- ・BNN 北海道 <http://www.hokkaido-365.com/news/2010/01/post-705.html> (アクセス日 2010年9月20日)